

平成31年3月4日（月）

（午前9時30分 開議）

○議長（岡 弘悟君）おはようございます。
ただ今の出席議員数は20人で全員であります。

○議長（岡 弘悟君）これより本日の会議を開きます。

この際、報告いたします。

市長から平成31年3月1日付、橋総第501号をもって追加議案5件が提出されました。議案はお手元に配付いたしております。これを今会期中にご審議願うことといたします。

以上で報告を終わります。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（岡 弘悟君）これより日程に入り、日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、議長において、8番 阪本君、18番 土井君の2名を指名いたします。

日程第2 一般質問

○議長（岡 弘悟君）日程第2 一般質問を行います。今回の一般質問の通告者は11人です。

質問は会議規則第62条の規定により、別紙の順序により発言を許します。

順番1、5番 坂口君。

〔5番（坂口親宏君）登壇〕

○5番（坂口親宏君）皆さま、おはようございます。坂口親宏です。

3月議会の初日のトップバッターということで、本来でしたら大変緊張していますが、身の締まる思いですというようなことを申し

上げるべきところではあるんですが、実は、2月の初旬くらいに少し体調を崩しまして、現在、上気道の気管支ぜんそくと診断されております。思わぬところで、登壇中、いわゆる答弁のお話を聞く最中でも、激しいせきが出るがありますが、自分のコントロールできないところがございますので、ひとつご容赦をいただければと思います。

今回の一般質問は私の5年間の議員生活の中で最後の一般質問になります。5年間の議員生活の中で一つ思うことだけを、少しだけ、短くお話をさせていただければと思います。

一つのプロジェクト、私も今回も提案をさせていただきますが、一つの提案の中で、一つ提案があったとすると、その提案をプロジェクトとすると、どのようにすれば実行が可能になるのか、できるようになるのか、それをなし遂げるためにはどのようにしたらいいのかと、あらゆる知恵を出す、そういった方策、そして一方では、一つのプロジェクトで最初にノーという結論があって、そのノーと言うためにはどのような理由づけをしてノーというふうにしていくのかというような、二つの方策があるとしますと、その考える労力というのはともに同じであったとしても、その開きはプラス10、プラス10ということで、もしそのプロジェクトが本当になし得ることができるのであれば、プラス10、マイナス10、合計20の開きができることとなります。

私も民間生活、民放でかなり、21年間、民間で汗を流しておりましたのでわかるんですが、一方が民間、一方が行政、どちらが行政なのか、どちらが民間なのか、もう皆さんおわかりだと思えるんですけども、一つ一つのそのプロジェクトを、ポジティブに前向きに

シンキングにしっかりと討論できる橋本市議会であればいいなというふうに思います。

私も今回、自動起動防災ラジオの提案をさせていただきます。今回が3回目になります。いずれも今までの提案の中では、十分な予算が見つからないということで、デジタル行政無線との兼ね合いの中で、なかなかいいご答弁が聞けなかったものですから、議員生活の中で最後に聞いてみようと思いました。

それでは、議長のお許しをいただいておりますので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

コミュニティFMを活用した自動起動防災ラジオ導入の是非についての検証でございます。

小さい一つ目、災害に関する情報を確実に届けるための情報受診媒体、いわゆる情報伝達手段の本市の考え方について伺います。

二つ目、自動起動防災ラジオが持つ機能の評価は。

それから、三つ目、自動起動防災ラジオの導入を求める自主防災組織などの市民の声はないのか。

それから、四つ目、自動起動防災ラジオ、即座の導入は困難という理由とその根拠を伺います。

以上、自動起動防災ラジオについての四つの項目について、ご答弁をお伺いいたします。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君の質問、コミュニティFMを活用した自動起動防災ラジオの導入の是非に対する答弁を求めます。

危機管理監。

〔危機管理監（吉本孝久君）登壇〕

○危機管理監（吉本孝久君）コミュニティFMを活用した自動起動防災ラジオ導入の是非についての検証についてお答えします。

まず、一点目の、防災情報を確実に届けるための情報受信媒体の考え方については、現

在、本市では情報伝達手段として、防災行政無線防災はしもとメール、プッシュ型エリアメール、防災行政無線テレホンサービスを活用し、複数の媒体で情報の伝達を行っております。

しかし、情報伝達ツールについては、日進月歩で発達しており、また、あらゆる情報伝達ツールを活用することにより、お互いを補完することで正確な情報を迅速に伝達することができるという観点から、現在活用しているツールを含め、幅広く調査しているところです。

次に、二点目の、自動起動防災ラジオが持つ機能の評価ですが、このラジオは、電源を確保するだけで災害時自動で起動すること、また、聴覚障がい者の方には文字放送対応可能ラジオで情報伝達ができることで、高齢者や障がい者の情報収集弱者には本市の情報伝達ツールを補完する観点からは有効であると認識しています。

次に、三点目の、自主防災組織など市民からの導入要望の声は、自主防災組織連絡協議会役員会や各自主防災会防災訓練などにおいて伺っています。

最後に、四点目の、自動起動防災ラジオの即座の導入は困難という理由と根拠については、平成30年6月議会においては、試験導入をしてはどうかのおたがしであったゆえ、試験導入であっても費用は必要となり、導入効果や既存の情報伝達ツールのさらなる活用検討を行わないままに、即座の導入は困難とお答えさせていただきました。

今後も引き続き、情報収集弱者に寄り添えるよう、既存のツールも含め、新しい技術を調査・研究したいと考えています。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君、再質問ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君） それでは、何点かお伺いいたします。

まず、今、ご答弁の中でありました、多様な情報伝達ツールを調査とありますが、具体的にはどのようなものを指しておっしゃっているのか、また、どのような調査をされているのか、伺います。

○議長（岡 弘悟君） 危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君） 現在、四つのツールを調査しているところでございます。少し時間をいただきます。

まず、一つ目として、現在、関東地方の市で電話による音声一斉伝送サービスを実施しているところがございます。このサービスは、災害時に防災行政無線が聞こえにくいといった方には市に電話番号を登録してもらい、防災行政無線の放送に合わせまして電話一斉配信サービスをするものでございます。

問い合わせましたところ、コストも非常に安く、登録世帯数が500件で、携帯電話でも登録ができるということで好評であるというふうに聞いております。

ただ、登録件数が1,000件を超えますと一斉配信に時間がかかる可能性があり、情報伝達に問題があるとのことでしたので、登録件数を調整する必要があるということです。

和歌山県下の市でも同じようなシステムを導入している自治体があります。こちらも登録件数は500件程度となっております。これについての導入の可能性を検討したいと考えております。

二つ目は、ポケベルの電波を利用した280MHzデジタル同報無線システムがあります。

このシステムの特徴としては、この電波はより速く、より確実に、建物内でも届くという特性がございます。また、音声ではなく文字を伝えるためデータ量が少なくて済み、高い受信感度であり、受信機で音声変換するた

め高画質での放送が可能であり、聞き取りやすいという特性もあわせ持ちます。

受信機は無線の個別受信機であり、この受信機にラジオ受信機能を追加しているということをごさいます。自動起動ラジオではございません。また、この機能を使用するには、現在ある防災行政無線システムを改修する必要がございます。この費用に1億2,000万円程度、年間保守委託料が700万円、個別受信機が音声のみの対応型で1台約1万7,500円、音声及び文字放送対応で1台3万2,000円の整備費用が必要となります。

このシステムは既存のコミュニティFMの連係は不可能になります。

そういうことで、導入は困難と考えているところです。

三つめは、テレビプッシュといたしまして、緊急地震情報や気象災害情報で緊急性の高いものはテレビが消えていても自動的に立ち上げてお知らせするというサービスですが、利用料金が高額ということが課題となっております。

しかしながら、先日のニュースなんですけれども、東北地方の大学生が緊急情報の新システムを開発したという記事が紹介されておりました。実証実験では特殊な発信機を新たに取付けた防災ラジオが起動すると、テレビが受信して自動で電源が入り、また、耳が不自由な人にも伝わるという、照明も点滅したということでございます。

これにつきましては、防災ラジオ1台で半径1kmの範囲をカバーするというところがございますので、これについても調査していきたいというふうに考えています。

それと、最後に、四つ目につきましては、SNSを活用している自治体がございます。これについても、メリット、デメリットなどの問い合わせをしていきたいというふうに考

えております。

以上です。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）では、いろいろな情報伝達ツールを研究していただいているということでございますけれども、その中で、今後、本市が採用する可能性がある、あるいは、今、危機管理監がご判断されて、採用したいと思われるようなツールはございますでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）今、ご紹介させてもらいました一つ目のツール、防災行政無線に合わせて電話で一斉配信サービスという電話のサービスについて、安価であるということでございますので、導入の可能性を検討していきたいというふうに考えております。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）それでは、先ほどのご答弁の中で情報収集弱者という言葉が出たんですが、この情報収集弱者というのはどのような方を指して言っておられるのか、具体的におっしゃっていただければと思います。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）情報収集弱者ということでございます。具体的には、聴覚障がい者、高齢者、視覚障がい者、それから、情報を取り入れられない、例えば、難聴地域にお住まいの方、情報収集機器、スマートフォンなどの携帯をお持ちでない方というふうに考えています。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）それでは、その情報収集弱者に寄り添えるよというの、どのような本市の姿勢でございませうでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）寄り添える姿勢ということで答弁させていただきましたが、

それにつきましては、情報収集媒体をお持ちでない方、また、その操作の不慣れな方、それから、防災行政無線の聞き取れなかった方に、さらなる情報提供が行えるよう、既存のツールを含め、課題解決のための多様なツールの調査・検討をしていきたいというふうに考えております。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）それでは、先ほど答弁の中でありました本市の情報伝達ツール、これは補完するという言葉があったんですけども、その補完というのは本市の情報伝達ツールのどのような部分、具体的におっしゃっていただきましたよね。デジタル防災行政無線、それから防災はしもとメール、それからプッシュ型エリアメール、それから防災行政無線のテレホンサービス等もおっしゃっていただいたんですが、それぞれを補完するのは、具体的にそれぞれ、どのような本市の情報伝達ツールの中で完璧でないと思われるところがおありになるのか、教えてください。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）情報収集の仕方なんですけども、それにつきましては、聴覚によるもの、それから視覚によるものに分けられるというふうに考えております。

本市は現在、聴覚は防災行政無線やテレホンサービスによって行っております。視覚につきましては防災はしもとメール、プッシュ型のエリアメールでございますけども、情報収集媒体をお持ちでない方、それからまた、操作の不慣れな方、防災行政無線が聞こえないという方の対応については少し対応が不足しているというふうに考えております。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）やはり、そのあたりの温度差というのが随分あるのかなと思います。

例えば、防災行政無線、これは以前の3月議会でも私は、前の坂本危機管理監のときにお尋ねしたと思うんですが、難聴地域、いわゆる聞き取りにくいと言われているところの世帯数であったり地区をお尋ねしたと思うんですが、それ以降は調査をされていらっしゃるのか、いらっしゃらないのか。いらっしゃるのであれば、何世帯ぐらいのところ、現在、地区があって、何世帯ぐらいの方から聞き取りにくいですよという、そういったお声があるのか、お尋ねします。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）前回の3月議会の答弁になってしまいうんですが、平成22年から23年に基準点を設けて音達調査を実施しております。それで、その調査をした状況のままなんですけども、前回の答弁では、調査結果では基本的に屋外全域はほぼカバーできている。ただ、室内におきましては、閉め切っている家庭もございまして、そういう状況の中で難聴地域の特定というのは困難であるというふうに考えています。

それで、防災無線が聞こえない方につきましてはフリーダイヤルを案内していると、こういうところがございます。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）もう一度確認なんですけれども、防災行政無線の難聴地域というのはよくわからないというようなことでよろしいのでしょうか。調査をしたけれども特定はできていない、あるいは、条件の悪いとき、暴風雨の夜、窓を閉め切った状態でなかなか聞き取りにくいときにはテレホンサービスで聞いてくださいという姿勢だと多分思うんですけれども、先ほど私、質問したと思います。

情報収集弱者に寄り添える姿勢はどうなんですかとお尋ねしたんですけれども、危機管

理の中では、いわゆる想定外を想定するということがよく言われるんですけども、自分たちの財産や命を守るわけですから、市民の皆さんも積極的に防災情報を取りに行く姿勢、これはもちろん重要です。取りに行かないといけないと思います。

ただ、一方で行政の立場からは、もう市民の皆さんはどうぞ積極的に取りに来てくださいというのではなくて、あらゆる可能な限りの情報チャンネルをオープンにして発信を続ける、これは命にかかわることですから、発信を続けるということが、それが情報収集弱者に寄り添う姿勢だと私は思います。

ですので、防災行政無線の難聴地域が特定できていないであったりとか、あるいは、あまり、世帯数もおわかりになりませんので、このあたりが寄り添う姿勢になるのかどうかというところが一つ疑問だと思います。

それと、今、もう一つ伺いたいの、プッシュ型エリアメールというお話をされていらっしゃるいましたが、このプッシュ型エリアメール、対応していないキャリアあるいは機種はどれくらいご存じなのか。おわかりになりますか。キャリアというのはわかりますか。では、ちょっとお答えください。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）キャリアという話でございますが、NTTドコモ、ソフトバンク、それからau等の事業者については、対応はできております。ただ、プッシュ型メールについても、防災速報エリアメールとかそういう表現の仕方は違うんですけれども、全機種のほうで対応可能というふうになっております。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）それでは、今お話しの中で、それは調査されていらっしゃるんでしょうか、実はSIMフリーであったりとか、

今、大手のキャリア以外に格安のキャリアでお使いになっているスマホもございます。

私、先ほど申し上げたと思うんですが、想定外を想定する、全ての皆さんが大手3社のスマホ、携帯をお持ちなのではないと思います。ですから、そういった方たちにもしっかりと対応できるように、例えば、SIMフリーのスマホ、格安スマホと言われている機種については、緊急エリアメール、緊急速報メールというのは対応しているのでしょうか、していないのでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）申しわけございません。今、私、説明させてもらったのは、大手といいますか、そういう事業者でございまして、SIM機の関係の携帯については確認はとれておりません。ちょっと申しわけございません。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）それはやはり危機管理監のお仕事だと思いますので、あらゆる事態、想定外を想定するというので、全ての皆さんが大手3社のキャリアをお持ちなのではないわけですから、そういったところもしっかりとフォローをしていくという姿勢が情報収集弱者に寄り添う姿勢だというふうには私は思います。

それと、ちょっと画像を使わせていただこうかなと思います。議場カメラ、撮っていただけますか。色が悪いですね。大丈夫ですか。

こちらがハイブリッド防災ラジオ、タクサン ミーオサウンドVL1という、既に開発されて三、四年たっている機種なんですけれども、ハイブリッド型の防災ラジオです。最も新しい機種だとは申し上げませんが、非常に革新的なものなんですけれども、危機管理監もいろいろと最新機器も鋭意研究をするというご答弁が以前にありましたから、もう既

にこの機種はご存じだと思うんですが、どこが画期的かというのは、これはV-Lowマルチメディア放送を採用しているということです。

ちょっと拡大してみましょうか。

緊急放送。今回ご紹介するこのハイブリッド、タクサン ミーオサウンドVL1、何とお値段のほうが1万9,800円です。2万円を切っております。高いか安いかは、それはさておきまして、3電源方式。内蔵電池、それからAC電源、それから乾電池と、3電源方式。

それから、下にありますね、V-Lowと書いていますね。いわゆるアナログのVHFのあいている地域を使っているV-Lowマルチメディア放送を採用しています。FM、AMはご存じだと思うんですが、このV-Lowマルチメディア放送を活用することによってどういったメリットがあるのか、危機管理監はご存じでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）Vアラートにつきましては、既に。

○5番（坂口親宏君）Vアラートのことは聞いてないですよ。V-Lowと申し上げています。

○議長（岡 弘悟君）V-Lowですね。

○危機管理監（吉本孝久君）V-Lowですね。要するにV-Lowを利用したマルチメディア放送、それにつきましては、文字、映像、音響も送れるということで、この放送波を利用する伝達システムでございまして、非常に有効であるというふうには私は考えております。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。おっしゃるとおりです。ですので、先ほどおっしゃっていただいたような聴覚障がい者の方にも対応できるというものでございます。

ちょっと見ていただきましょう。こちらが普通の通常時のディスプレイなんですけれども、時刻が出たりとかチャンネル数が出たりとかするんですが、ここに、先ほどのV-Lowマルチメディア放送では自治体から常に。もう一つ申し上げておくと、蓄積型の放送だということです。リアルタイム放送ではなくて、蓄積型というのはずっと発信し続けられるということです。つまり、音声で聞き逃した情報でもずっとこのディスプレイに表示されているということです。

もう一つの画面を見ていただきますと、このように、緊急地震速報であつたりとか文字で表示されます。これは聴覚の障がいをお持ちの皆さまにとっては大変便利なものだろうというふうに思います。

こういったものもございますので、自動起動防災ラジオのメリット、日々新たに、危機管理監もおっしゃっていましたが、日進月歩の技術開発がされています。

このV-Lowマルチメディア放送というのは、FMはしもとは対応可能な放送システムでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）V-Lowマルチメディア放送につきましては、テレビの地上波、今はデジタルに変わっていますが、地上波になりますので、FMはしもとはデジタルの放送でございますので、FMはしもとに問い合わせをしましたところ、デジタル放送でございますので対応は困難であるというふうに回答をもらっております。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）議場カメラを私のワンショットに戻してください。画像は結構です。

わかりました。現在、こういった日進月歩の技術の中で、まだ十分研究をされていない部分というの

は承知いたしました。

それでは、今回質問する契機になったのが、市民から導入要望の声があつたということなんですけれども、自主防災組織からそういう声があつたということなんです。これどうしようとお答えをして対応をされていらっしゃるのでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）答弁書のほうは、自主防災組織連絡協議会役員会、それから市民と、二つの意見をもらっているというふうに答弁させてもらいました。

まず、自主防災会の役員会の方には、自動起動ラジオのほうの調査・研究をしてもらっているところですが、なかなか事業費も大きくなり、今現在は電話一斉放送サービス、これについての導入の可能性を考えているというふうに答弁しております。

それから、市民の方につきましては、費用の面もあり、即座の導入は困難であるというふうに回答をさせてもらっております。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

即座の導入は困難ということなんですけれども、今ずっとご答弁を伺っている、いわゆる情報収集弱者への寄り添う姿勢であつたりとか、まだお互いの本市が持っている情報伝達手段というのをそれぞれ補完するツールというのは、なかなかうまく機能していないのかなという感じがどうしても否めません。

どうでしょうか。今、即座の導入は困難という部分では、資金面、予算の話だと思うんですが、現在、適用可能な補助金があるのかなのか、お調べいただいていますでしょうか。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）使用できる補助

金でございますけれども、それにつきまして、音声のみの自動起動ラジオについて、システムは構築が数百万円程度かかるということで、これにつきましては2分の1の補助金がございます。それから自動起動ラジオ、これにつきましては緊急防災・減災事業債という起債が、100%充当で70%が交付税算入されると。それから、先ほどのシステム構築の数百万円の補助金の2分の1の補助裏にも緊急防災・減災事業債が充当できるというふうになっております。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）あまり時間もかけたくないんですけども、先ほどおっしゃっていただいた、導入効果や既存の伝達ツールのさらなる活用検討をしたいと、行わないで本格導入も含めというようなお話でしたので、積極的に本市が持っている情報伝達手段を精査して、しっかりとさらに活用の可能性を調査していくということだと思っておりますけれども、これは今後どのようにされていらっしゃるんですか。

いろいろと、まだまだお調べいただいていることも今のご答弁の中でわかりましたので、今後の課題としては、危機管理監としては、本市が持っている情報伝達ツール、大前提が情報収集弱者に寄り添う姿勢、想定外を想定する姿勢という基本的理念の中で、どのようにお考えいただいているのか、お尋ねいたします。

○議長（岡 弘悟君）危機管理監。

○危機管理監（吉本孝久君）FM放送を活用した自動起動ラジオにつきましては、やはり難聴地域がございまして、出力を上げて、遠くへは飛ぶんですけども、難聴地域の解消はなかなか難しいというのもございます。

そこで、電話一斉配信サービスであれば希望者に、難聴地域というのがございませんの

で、電話一斉送信サービス、こちらのほうの活用について導入の可能性を検討していきたいというふうに考えます。

○議長（岡 弘悟君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

では、最後に副市長に、今後使える補助金があったりとか、使える可能性があったら、将来的には本市としてはこの防災起動ラジオを使う可能性、導入する可能性があるのかなのか、本市の考え方について伺いして、この質問を終わらせていただきたいと思しますので、副市長のご答弁をお願いいたします。

○議長（岡 弘悟君）副市長。

○副市長（市民生活部長事務取扱）（森川嘉久君）議員のほうから3回にわたってご質問をいただいたわけでございますけれども、確かにFMの自動起動ラジオ、一面ではすぐれたシステムであろうというふうには思っております。

ただし、どんなシステムにもメリットとデメリットがございますので、それから、コストパフォーマンスのところもございまして、その辺をよく検討しながら一つのツールとして考えていきたいというふうにご答弁をさせていただいたわけでございますけれども、財源の面、確かに、今、補助金、それから起債というようなことで、ないこともないんですけども、その前に、先ほど危機管理監から申し上げましたように、ほかの手段でできるところは、それもコストの安い手段でできるところはやっていきたいという方針でございますので、一つの選択肢としては今後も検討はさせていただきたいと思っておりますし、先ほどご紹介いただきましたように、日進月歩で新しいラジオも提供されておりますので、その辺も含めまして、当然のことながら検討はさせていただきたいところでございますけれども、現

時点で、即座に導入という判断は残念ながら
できかねます。

○議長（岡 弘悟君） 5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）以上で終わります。

○議長（岡 弘悟君） 5番 坂口君の一般質

問は終わりました。

この際、10時15分まで休憩いたします。

（午前10時3分 休憩）